

教職員養成・育成だより 第60号

令和4年3月24日発行
横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

令和3年度 よこはま教師塾「アイ・カレッジ」閉講

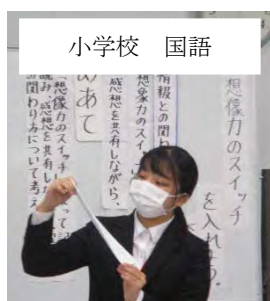
9月5日に開講した令和3年度のよこはま教師塾「アイ・カレッジ」は、全ての講座を終了し、3月19日をもって閉講しました。新型コロナウイルスの感染症の状況を踏まえ、全10日の開講日のうち、オンラインによる開催が5日、集合・対面での開催が5日となりましたが、塾生はこの間学びを止めることなく、「横浜の教師になる」という目標に向かって、常に真摯に学び続けました。3月の講座は、少人数グループを編成し、感染症対策を徹底した上で、授業づくり演習～教科等の模擬授業～、「教師を目指す『わたし』を磨こう～振り返り～」等を実施しました。どちらの内容も集合して実施することで、これまで学んだことを生かし、全て出し切ろうとする塾生の姿が見られました。その様子をお伝えします。

授業づくり演習～教科等の模擬授業～

12月に行った1回目の模擬授業を踏まえ、今求められている授業の在り方について、塾生なりに探究し、2回目の模擬授業に臨みました。小学校グループは国語科の学習指導案を更に練り上げ、中学校グループは新たな単元等に挑戦しました。発問を吟味し、児童生徒の反応やつぶやきを具体的に想定しながら、児童生徒から問いが生まれるような学習展開を考えるとともに、児童生徒の目線や立場に立った板書や教材・教具等の工夫が見られるようになりました。

小学校 国語の模擬授業に臨んだ塾生の声

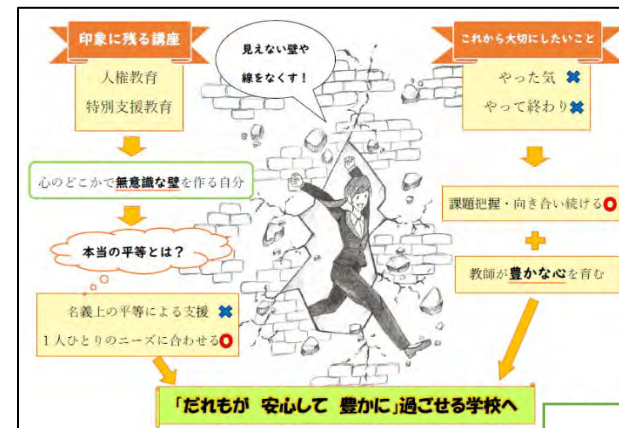
児童の興味・関心を引き出し、全ての児童が意欲的に取り組むことができる授業づくりができる教師になることが私の目標です。そのために、今回の模擬授業においては、どのような発問が児童の関心を高め、一人ひとりの興味を引き出すことができるかということについて、より深く学びたいと考えました。模擬授業後の討議では、問題を解決する過程や、ペアやグループワークの取り入れ方について他の塾生からたくさんアドバイスをもらいました。児童の興味・関心を高め、意欲を引き出すには、発問の工夫に加え、様々な手立てや準備が必要になるということが分かりました。「アイ・カレッジ」の活動を通して、自分自身が「主体的・対話的で深い学び」の学び手として、目指す授業づくりについて真剣に考え、成長することができたと実感しています。



教師を目指す『わたし』を磨こう ～振り返り～

塾生自身がこれまでの学びを振り返り、成長した自分、ここまで学び続けた自分についてポスターを作成し、一人1分半ずつプレゼンテーションを行いました。発表の一部を紹介します。

- 人前で発表したり、自分の意見を伝えたりすることが苦手だった。消極的な自分をこの半年でずいぶん変えることができた。
- 「横浜の教師になる」という同じ夢や目標をもっている仲間と出会えたことが、自分にとって大きな宝物である。卒塾後も、更に切磋琢磨しながら学び続けていきたい。
- 周りの塾生と比べ、「自分はなんでこんなことも分からないんだろう、できないんだろう」と落ち込むことも多かった。その度に、指導教官に励まされ、「焦らないで大丈夫だよ」と寄り添ってくださった。自分もそんな教師になりたいと強く思った。
- 講座内容や他の塾生の言葉を一字一句聞き逃したくないと思い、ノートを作ったり、日記をつけ始めたりした。KTPでは視点に沿ってメモをとり、学びを積み重ねることができた。
- 「アイ・カレッジ」が大切にしている「自学・協働・省察」の学び方のサイクルの重要性を実感した。このような学び方を身に付けることができたことを、これから様々な場面で生かしていきたい。



卒塾にあたって～副塾長講話～

副塾長である小原健人教職員育成課長からは3月12日に実施した模擬授業の指導・講評とともに、これまでの塾での学びや成長の価値付け、今後の塾生に期待すること等、卒塾にあたって講話をいただきました。「『アイ・カレッジ』で見つけた自分の強みや個性を存分に生かし、課題については真摯に向き合い、解決に向けて具体的に行動しながら、自分の夢や目標に向けて一歩ずつ進んでほしい。」というお話を、塾生はこれまでの半年間の日々とともに胸に刻もうと聞き入っている姿が見られました。



KTP (教師体験プログラム) への御理解・御協力 ありがとうございました

「教師体験プログラム (KTP)」につきまして、塾生に対し、各学校の実態や行事等に応じた多様なフィールドを提供していただきました。コロナ禍により、学校体験の活動が難しい場面もある中で、御理解・御協力いただき、ありがとうございました。塾生は児童生徒とのよりよい関わり方を学び、学校の「今」を感じることができました。また、教職員が日々の業務に当たるその姿から、教職という仕事のやりがいや魅力を改めて見いだすことができました。

★「教職員養成・育成だより」は横浜市立学校向けに記載していますが、大学等におかれましても御一読いただけますと幸いです。

教職員養成・育成だより 第59号

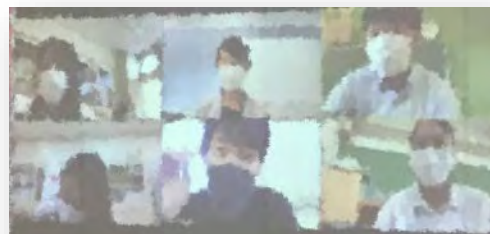


令和4年3月10日発行
横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

【初任者研修】1年間の研修が終了しました！

3月8日(火)をもって、令和3年度 初任者研修(補講も含む)全ての日程を終了しました。年間10回以上(校種、職種によって異なる)の集合研修に加え、eラーニング、事前・事後課題レポート、校内研修等で大変忙しい1年間だったことと思います。

4月の第1回研修は花咲研修室に集合して行いましたが、以降はすべてオンライン研修となりました。オンラインであっても、毎回、「学習指導」「児童生徒理解」等のテーマのもと、メンバー同士でじっくり協議を行うことができました。「校外学習体験研修」では、引率者の視点で郊外での体験学習を企画し、しおりを作成しました。実際に、グループごとに「みなとみらい・関内周辺」を歩いて体験する予定でしたが、感染症の影響で実施はかないませんでした。しかし、目標に向けて協議を重ねる中で仲間との繋がりを深めることは十分にできたようです。



オンラインでのグループ協議の様子

初任者のみなさんは、横浜の教職員として今後も共に働いていく仲間と切磋琢磨しながら、1年間の研修を終えました。2年目以降は、自立して働き、自ら学び続けることが必須になります。これまで支援して下さった方々への感謝の気持ちを忘れず、同期の仲間との繋がりをより一層大切にしながら、それぞれの学校で活躍してほしいと思います。

初任者の声 ～「初任研 最終回 振り返り」より～

- 1年間、オンラインではありましたが、同期の仲間とたくさん話ができ、悩みを共感しあったり励まし合ったりして、毎回、元気になりました。「校外学習体験研修」行きたかったです。
- とても忙しかったですが、多くのことを学べた1年間でした。グループには、色々な校種の仲間がいたので、協議が毎回新鮮で、たくさんの刺激をいただきました。楽しかったです。
- 自分のクラスでうまくいかないことがあって少し落ち込んでいても、初任研で学んで、同期の仲間と話をすることで、頑張ろう!と思うことができました。研修室で会えなくても同期のつながりを感じることができました。いつかリアルで会いたいです。

令和3年度の横浜型初任者研修は、「いかなる状況でも初任者の学びを止めないこと」を目標として、オンライン、eラーニング、花咲研修室での集合研修を組み合わせ、その時の状況に応じて最適な形で開催してきました。そのため、受講者及び受講者の管理職、指導にあたる方々には、その都度柔軟に御対応いただきました。今後も受講者の学びを第一に考え、研修を企画・運営してまいりますので、御理解、御協力のほどよろしくお願いいたします。

【初任2・3年目研修】自己分析を基に講座選択 ～セルフ・マネジメントの第一歩～

横浜型初任者研修は、初任から3年間を通して、教職員としての基礎固めをすることを目的とし、「人材育成指標」を基に、教職員が身に付けるべき3つの資質・能力を計画的に学べるよう、次のように組み立てられています。

- 1年目:「教職の素養」「専門性・授業力」
- 2年目:主に「専門性」
- 3年目:主に「専門性」「マネジメント」

これらの資質・能力を身に付けていく方法として、分析チャートを活用しました。自身の「強み」と「課題」を把握し、なりたい自分をイメージして目標を定め、学びを深めました。

特に、初任2・3年目研修では、自身の学びを「セルフ・マネジメント」しながら、「自ら学び続ける教員」になっていくことも目標としています。



初任2年目研修「第1回必修集合研修」では、分析チャートに表れた自身の「課題」から、自分が必要としている学びは何か考え、選択必修として「児童生徒理解」「保護者対応」「教育的ニーズに対応した指導・支援」の3つの講座から選択して受講しました。「教職の素養」は必修自ら選択することで、より主体的な学びとなったことが振り返り等で報告されました。

初任2・3年目研修受講者の声 ～「必修集合研修 振り返り」より

- 保護者対応について難しさを感じていたもので、学ぶことができよかったです。同じように悩んでいる同期と悩みを共有できたことで、また明日から頑張ろうという気持ちになりました。
- 子どもたちの教育的ニーズに対し、うまく対応することができていない気がしていたので選択しました。どうしてそのような行動をするのか等、学んだことを生かして、子どもへの接し方を変えてみたい、工夫したりしていきたいです。
- 児童生徒理解について学び、方法や技術だけでなく、教師として大切なことを考えることができました。

「教員基礎研修」初任2・3年目選択研修でも活用されています！

「教職員養成・育成だより」を通じて、教員基礎研修の魅力活用術等を継続してお伝えしてきました。今年度は、初任2・3年目研修の受講者の選択研修として活用しました。集合研修型に参加した方は、同じ課題を持った受講者と協議を通して学び合ったり、ファシリテーターである指導主事等に直接相談したりしています。また、通信教育型を選んだ方も、それぞれの状況に合わせて校内で学びを深めています。

「必修の選択研修だから」が、受講のきっかけだったとしても、自ら選択して学ぶ楽しさを感じて下さったなら、教師力のアップデートのために、来年度以降も、教員基礎研修を自身の状況に合わせて、末永くフレキシブルに御活用ください。



教職員養成・育成だより 第58号



令和4年1月7日発行
横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

「アイ・カレッジ」塾生 学び、高め合っています

よこはま教師塾「アイ・カレッジ」では、現在77名の塾生が学び、互いを高め合っています。感染症対策を講じながら、これまでに3回の講座を対面で開催することができました。それぞれの回でどのような学びや成長が見られたのかをお伝えします。



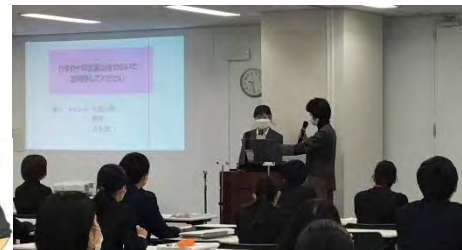
10月31日「やっと会えましたね！」

これまでの講座は全てオンラインで実施していたため、10月31日は緊張よりも初めて対面できた喜びや嬉しさをかみしめている塾生の姿が見られました。オンライン上で討議を重ねてきましたが、それを生かして対面でも司会を立てたり、タイムマネジメントしたりしながら、テーマに沿った討議をしっかりと行うことができました。この日は、目標設定の仕方、授業づくりについて学ぶとともに、副塾長 小原 健人教職員育成課長の講話を聞き、教師という仕事の魅力、やりがい、責任について改めて見つめ直しました。



11月28日「子ども一人ひとりに寄り添うってどういうこと？」

この日の講座では仏向小学校 冢田 三枝子校長先生を講師としてお招きし、特別支援教育への理解を深めました。子どもに寄り添うとはどういうことかを考えるとともに、塾生は、発達に課題のある子どもの気持ちを受けとめることの大切さに気がきました。講座終了後のレポートには、「アシスタントティーチャーとして子どもと関わる際、もしかしたら子どもの心を傷つけていたかもしれない」、「『できる』か『できないか』だけでなく、取り組む過程をしっかりと見つめていきたい」等の記述がありました。



12月26日「体験するって大切だね！」

スタンダード講座は、対面ではなくは学べないことにこだわってカリキュラムを編成し直しました。この日の講座は、横浜学校カウンセリング研究会の会員を講師として、「傾聴」について学びました。話し手・聴き手それぞれの役割をロールプレイング演習として体験し、相手に寄り添った話の聴き方について見つめ直しました。また、作成した学習指導案に基づいて、模擬授業を実践する講座もありました。想定した授業展開にならなかった塾生、児童生徒役にうまく切り返せなかった塾生等、様々なつぶやきが聞こえてきましたが、これも実際にやってみることができたからこそ捉えることができたとも言えます。見つかった課題の克服に向けて来月以降も学びを着実に積み重ねていきます。

現在KTP(教師体験プログラム)として、多くの学校に塾生を受け入れていただき、貴重な学びの場の御提供をありがとうございます。引き続きよろしく願いいたします。

東高校の生徒とワークショップを実施

横浜市立東高校は、ユネスコスクール加盟校として、ESD(持続可能な開発のための教育)を推進しています。具体的な取組として、ESDやSDGsに対する理解を深める場としての講演会やワークショップの開催、生徒のボランティア報告会などを実施してきました。こうした取組の一環として、平成30年度から横浜市立東高校とYMBL(横浜メディアビジネス総研)との共催にて、同校在籍の1年生及び2年生を対象として、社会貢献活動を実践する企業や団体等の活動をプレゼンテーションする機会(イーストタイム プレミア プログラム)を設けており、今年度は令和3年12月21日に実施されました。

教職員育成課は、本プログラムに毎年参加し、教育について高校生と考える機会を設けてきました。全34の企業・団体が参加する中で、今年度は「先生の持続可能な働き方を高校生目線で考えてみよう」というテーマでワークショップを行い、40名を超える生徒が参加しました。横浜市の教員の働き方に関する課題解決に向けた取組を紹介し、それについて意見交換する場面では、高校生として期待する教員のよりよい働き方について、具体的に語り合いました。日々接している教員を、自分たちにとって最も身近な社会人として捉えていた姿が印象的でした。

ワークショップのまとめとして、動画「先生になりたい」のダイジェストを視聴しました。東高校の卒業生である「みさきさん」が高校3年生の時に小学校で教師体験を行い、子どもとの触れ合い、教員との関わりを通して、教師という仕事の魅力ややりがいを感じ取っていく内容です。先輩が登場する動画を視聴し、やりがいをもって働くことの大切さを高校生も実感したようです。参加した生徒の声を一部紹介します。

- 教員の仕事はやりがいを感じると思うし、どんなに辛くても乗り越えられるのかなと思ってたし、実際そう思っている先生方も多いことが分かりました。しかし、それだけでは持続可能とは言えないこともよく分かりました。私は中学校、高校の、日々やりがいを感じながら笑顔で接して下さる先生方を見て、自分も先生になりたいと思うようになりました。子どもたちのためにもよりよい働き方を目指して、自分の人生も、教師としての人生もどちらも大事にできる先生が増えていくといいです。
- 実際に先生方が自分たちの働き方についてどのように考えているのか、そしてどのような取組を通して課題解決を図っているのかということ、自分はほとんど考えたことがなかったので、今日はとてもよい機会になりました。先生にはいつも元気で、やりがいをもって働き続けてほしいと思いました。

動画「先生になりたい」(全18分)「横浜市 高校生・大学生向けWebページ」に、広報用Youtubeとして掲載しています。



再生回数15000回を超えました!



教職員養成・育成だより 第57号



令和3年10月21日発行
横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

教員基礎研修 第3回 A集合研修型

～教育的ニーズに対応した指導・支援～



「教員基礎研修（A集合研修型）」は、今年度は全てZ o o mにて開催します。

9月30日(木)に、第3回（教育的ニーズに対応した指導・支援）を実施しました。「特別な支援を必要とするなど多様な子どもたち一人ひとりに対し、よりよい支援・指導を進めていく際の自身の課題を見つめ、協議を通して課題解決への糸口を掴む」、ということ研修のねらいとし、47名の教員が5つのグループに分かれ、話し合いを行いました。

教員基礎研修（A集合研修型）が、他の集合研修と異なるところは、研修の初めから終わりまで少人数のグループに分かれ、教職員育成課スタッフが各グループに入り、丁寧に協議を進めていくという点です。

今回は、更に各グループにお一人ずつ、特別支援教育がご専門の大学の先生方に助言者として入っていただきました。



* Aグループ助言者 國學院大学 高橋 幸子 先生

現場でのご経験を生かし、受講者の悩み等にも理解を示され、親身になって共感的にやりとりをしてくださいました。研修を終えた後も、受講者の質問メールに、丁寧に回答いただきました。高橋先生は「現場の先生方が、日々の実践について具体的に生き生きと語られるの聞くことができる機会は、何ものにも代えがたいものです。日々の気付きから工夫を積み重ね、実践力を高めていらっしゃる様子がうかがえました。皆様の語りから多くの示唆が得られ、私にとっても有意義な学びの時間となりました。」とおっしゃっていました。

* Bグループ助言者 関東学院大学 長澤 真史 先生

教育現場での教諭のご経験と研究を基に、受講者の悩みや課題について受容していただき、具体的で大変分かりやすくご指導いただきました。研修終了後の質問者に対しても、今後の対応について丁寧にお話しくださいました。長澤先生は、「それぞれに悩みを持ちながらも、情報交換して実践をよりよくしていこうとされている姿に刺激を受けました。インクルーシブ教育を進めていく基盤は、目の前の子どもを見ながら、我々一人ひとりが考えること、そしてそれを話し合うことだと思います。」とおっしゃっていました。

* Cグループ助言者 相模女子大学 大里 朝彦 先生

教育現場での教諭、管理職としてのご経験や教育委員会での指導主事、管理職としてのご経験を基に、受講者の日々の実践や悩み等に寄り添いながら具体的なアドバイスをたくさんいただきました。説明の中ではご自身が準備されたフリップなども使いながら、視覚的にも大変分かりやすくご指導いただきました。大里先生は、「初めての参加でしたが、先生方がとても熱心に参加されていることを嬉しく思いました。一人ひとりとじっくり話せるともっと盛り上がると思いました。」とおっしゃっていました。

* Dグループ助言者 横浜国立大学 後藤 隆章 先生

「児童生徒ができていないこと、できていないことの境目を見つけることが、具体的かつ適切な支援につながる。」「児童生徒の望ましい行動を誉め、望ましい行動を積み重ねていくよう支援することで、自分の得意なことと不得意なことを認識できるようになる。」など、受講者にとって、これからの指導につながるご助言をたくさんいただきました。後藤先生は、「特別支援教育では、『つながること』『つなげること』がとても大事。今回の研修が皆さんの『つなげる』『つながる』スキルを高める一助になれば。」とおっしゃっていました。

* Eグループ助言者 田園調布学園大学 新井 雅明 先生

「支援は指導の大前提。支援なくして指導はない。適切な支援はやらなければいけないことである。また特別支援の対応の基本は学級担任であり、そのためには学級経営をしっかり行うことであるが、担任ひとりで悩むのではなく、チームとして取り組むことが重要である。教員一人ひとりが授業のユニバーサルデザイン化をめざして、取組を進めてほしい。」と、以前、特別支援学校の管理職をされていたご経験を基に、熱く丁寧に指導いただきました。新井先生は、「現場の皆さんの率直な気持ちを理解するよい機会になりました。」とおっしゃっていました。

参加した受講者の声

- できていたつもりだったけれど、理解が足りていなかったなと気付かされる場面や、他の学校の方の悩みや実際に取り組んでいることを知ることができて勉強になりました。
- 特別な配慮が必要な子どもへの接し方、周りの子どもへの示し方について、今後の自身の糧となる知識や情報が得られました。また、大学の先生の、「エラーから学ぶことが難しい子どもがいる。『書くこと』は高次の能力が求められる。」というお話が印象に残りました。これらのことを自身の実践に生かしていきたいと思います。
- 個別支援学級だと、異学年で学習進度も異なるため、学習が進めにくいという悩みを、視点を変えて異学年での関わりを生かせる授業の形態を考えることも大切だなと思いました。自分と同じ境遇の先生方と意見を交換でき、とても充実した時間になりました。
- 学校種が違ったことで、悩むポイントの違いが聞けてよかった。違う目線の話聞くことで、理解を深めることができたので、今後同じような悩みが出てきたら、その人の立場になって話を聞き、解決に向けて協力したいと思います。
- 話しているうちに大学の講師の方に質問したいことがいくつかでてきました。直接会ってお話ししたかったなと思いました。

11月25日(木)（第5回）に、今回と同じ内容の研修がもう一度あります。
今回参加できなかった方は、ぜひ、お申込みください。

教職員養成・育成だより 第56号



令和3年10月14日発行
横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

日本体育大学との連携 その1 9月22日 学外研修

日本体育大学は、教員の養成に力を入れている大学の一つです。大学内に「日体教学舎」を設置し、小学校教諭、中学校保健体育の教諭、特別支援学校の教諭、養護教諭を目指す60名あまりの大学2・3年生が、大学のカリキュラムに加え、児童生徒指導・支援、授業づくり、保護者対応などについて、具体的、且つ、実践的に学んでいます。

今年度は、日本体育大学との連携をもう一步進め、9月22日に横浜市をフィールドとした学外研修を実施しました。当初は、学生を小グループに分け、市内の小中学校8校で、授業参観や教員との懇談会を企画していましたが、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、受入れは中止し、Zoomによる協議・演習という形で実施しました。

9月22日の学外研修は40名を超える学生が参加しました。校種別グループになり、Zoomによる協議を行いました。テーマは「もっと知りたい！学校のこと、教師の仕事について」。学生の素朴な疑問、質問に対し、教職員育成課の指導教官・指導主事がファシリテーターとなり答えたり、答えのない問いに対しては、学生とともに多様な考えを出し合ったりしながら協議を深めました。さらに、演習として教員基礎研修のショートコンテンツ「教室が私語で騒がしくなった。あなたならどうする？」をテーマに、よりよい対応の仕方や対応の際に配慮することなどを多面的に検討しました。また、横浜ならではの取組を紹介するとともに、教員の魅力ややりがいについても、それぞれのファシリテーターの経験や思いに基づいて、力強く発信しました。

参加した学生の声

- ☆教育の可能性と教職の魅力を感じ、改めて「教師になりたい」という素直な心と熱意をもつことができました。「自ら学び続ける」ことができる教師を目指していきたいと思えます。
- ☆これまでの、教師のあるべき姿をなんとなくイメージするだけでしたが、今回の学外研修をとおして、自分がどのような教師になりたいのか、少し明確になってきました。
- ☆「教師は子どもの鏡である」という言葉に強く感銘を受けました。自分が小学校の教員になりたいと思ったきっかけが、小学校の恩師の影響であることから、自分の子ども時代にその先生がよい鏡として様々な姿を見せ、自分たちを導いてくださっていたことに気がきました。
- ☆教師をしていく上で、大切にすべきことをたくさん学びました。「計画的に行動する」「探究心をもつ」「誠実に人と関わり、向き合う」ことなどは、学生である今から取り組めることなので、努力し続けたいと思いました。

大学生の受入れに際し、戸部小学校、本町小学校、大鳥小学校、間門小学校、仲尾台中学校、本牧中学校、南高等学校附属中学校、汐見台中学校のみなさまには、大変お世話になりました。実施はできませんでしたが、学生の学びを深めるために、各学校の特色を生かした多彩なプログラムを御提案いただきました。ありがとうございました。



日本体育大学との連携 その2 10月4日 出前授業



10月4日には日体教学舎の講座として、指導主事による出前授業を実施しました。テーマは「新学習指導要領を踏まえた授業改善の在り方」です。授業改善として求められている「主体的・対話的で深い学び」とは、学生自身が受けてきた授業とどのように違うのかを具体的に考えたり、資質・能力の育成につながる授業づくりのステップを演習の中で体験的に学んだりしました。学生は意欲に満ち溢れ、仲間とともにアイデアを出し合いながら、これから求められる授業プランを作成しました。



今後日体教学舎では毎週の講座をとおして、授業づくりについて学びを深め、12月の閉講時には学びの成果をまとめ、発表する機会を設けています。まさに学生自身が「主体的・対話的で深い学び」の学び手となり、よりよい授業を探究していきます。

参加した学生の声

- ☆授業づくりの場面で、児童生徒に対して、何が必要かを考えることができ、より一層教師になりたいという気持ちが強くなりました。
- ☆今回の講義を通して、授業づくりの過程を自分自身が体験し、授業のねらいが児童生徒にあったものに設定することの重要性を学びました。



祝！再生回数 10000回超 「先生になりたい～高校生の教師体験記～」

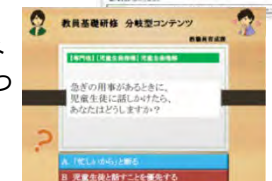
教職員養成・育成だより第48号（令和3年4月2日発行）でお伝えした、教員の魅力を高校生が伝える動画「先生になりたい～高校生の教師体験記～」の再生回数が、先日、10000回を超えました。各大学等では、授業での活用や教師を目指す学生への呼びかけ、ありがとうございます。本市の中学校、高等学校におけるキャリア教育でも使っていただけるよう、授業プランや生徒用ワークシートも用意していますので、ぜひ御活用ください。



教員基礎研修 コンテンツを活用しませんか？

「忙しくて校内研修の時間が設定できない！」という教員の悩みに対応するため、教職員育成課では、会議の後などのわずかな時間を使って、学べる教員基礎研修のコンテンツを多数用意しています。1ペーパーで知識や情報が得られるもの、場面对応について考えるもの、の二つのタイプがあります。

コンテンツはすでに30を超え、児童生徒指導や授業づくりのみならず保護者と上手に関わるポイントや教師の仕事術について扱ったものもあります。「学び続ける教員」を目指して、コンテンツを御活用ください。



★「教職員養成・育成だより」は横浜市立学校向けに記載していますが、大学等におかれましても御一読いただけますと幸いです。

教職員養成・育成だより 第55号

令和3年10月14日発行
横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

令和3年度 よこはま教師塾「アイ・カレッジ」開講

令和3年度のよこはま教師塾「アイ・カレッジ」が9月5日に開講しました。横浜の教師を目指す大学3年生を中心に、77名の塾生が学び始めました。今期のアイ・カレッジでは、前半3回をベーシック講座として位置付け、次のような姿を目指してきました。

- 教職への思い・情熱をもつとともに、児童生徒に教育的愛情をもって接することの大切さを理解している姿 **<高める「愛」>**
- 横浜の教師を目指す塾生として、自分の強みや課題を捉え、資質・能力を高めようとしている姿 **<鍛える「EYE」>**
- 仲間や指導教官等とコミュニケーションをとり、自らの目標に向かって切磋琢磨しながら、学び続けようとしている姿 **<磨く「I」>**

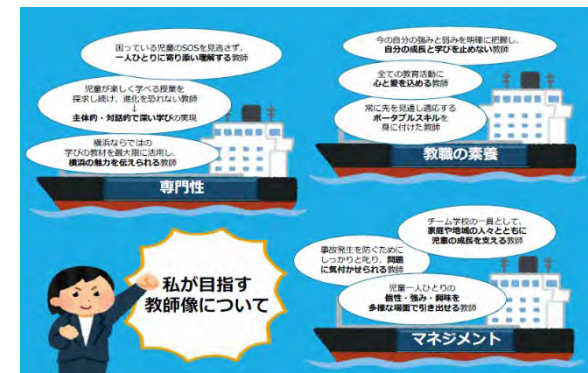
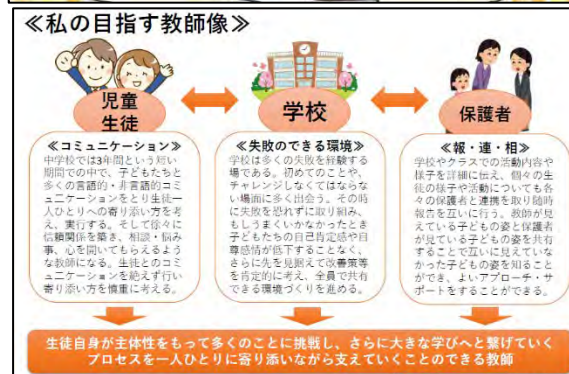
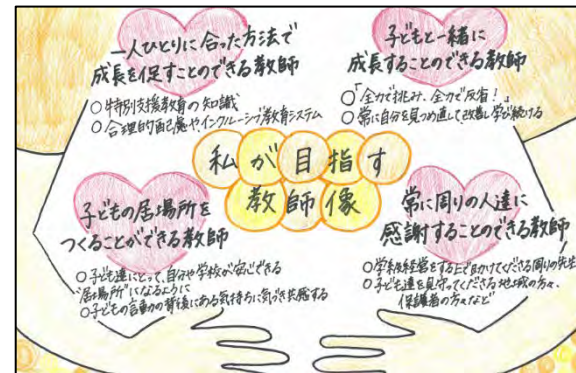


新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、全ての講座をオンライン上で実施しましたが、塾生は、同じ夢や目標を志す仲間と積極的にコミュニケーションを図っていました。「開講にあたって（「アイ・カレッジ」塾長 小椋教育次長による講話）」、「授業づくりの基礎」「横浜の人権教育」「危機管理を学ぼう」の講義・演習では、新たに吸収した知識と大学での学びや学校でのボランティア体験等をつなげながら、学びを深めました。塾生の声を一部紹介します。

- 自分の体験や考えには限界があるため、同じ目標をもつ他の塾生の話や意見を聞くことで視野が大きく広がったように感じています。また、相手に意見を述べるときに、よい面ばかりではなく、改善点を述べるのが今まで非常に少なかったため、アイ・カレッジの活動を通して、自分の中の意識が変わったように感じます。
- これまでは何となく教師になるための方法や学び方について、誰かに教えてもらえると考えていましたが、自分で学び考え、行動に移すことが必要なのだと考えが変わりました。また、学校でのボランティアも楽しく活動して終わっていましたが、子どもとの接し方や支援の手立て、子ども向けの自分の言動など一つひとつが、自分が教師になるための学びにつながるのだと気がきました。
- 人と学ぶことが減っている中で、自分と同じ横浜の教員を目指す人たちと学ぶ機会を得られたことは、貴重な体験になりました。講座で学んだことを生かして、横浜の児童生徒の成長を支えることができる教員になれるよう、更に学び続けていきたいです。
- 本気で教師を目指す人たちと、教育現場で起こる問題について、対話的に学び合い、切磋琢磨することができました。今後もしっかり取り組みたいです。
- 塾長の講話では、「横浜の教師を目指す」ということについて、より強く意識するきっかけになりました。「横浜の人権教育」では、「気付かない自分に気付く」ことの難しさと大切さを実感しました。

★「教職員養成・育成だより」は横浜市立学校向けに記載していますが、大学等におかれましても御一読いただけますと幸いです。

「自分がどのような教師を目指したいか」について、塾生全員がポスター（発表シート）を作成し、プレゼンテーションを行った際には、自分の夢や目標を真剣に語る姿が見られました。互いのプレゼンについて討議を行ったことも塾生には大いに刺激になりました。塾生が作成したポスターの一部と、講座の振り返りを紹介します。



講座を振り返って

- プレゼンと討議を通して、班のメンバーの目指す教師像に、自分自身も大変よい刺激を受けました。また、発表を通じて、自分のよさや個性についても見つめ直すことができました。
 - 自分の中であいまだった「目指す教師像」が、他者に伝えるという活動を通して、明確になったことが最もよかった点です。明確になったことで自分に足りないところや目標に近づくために何をしたらよいかを考えるようになりました。
- 10月31日から3月までは全7回のスタンダード講座を実施します。教師体験プログラム(KTP)も開始し、児童生徒や教職員と関わることを通して、「教師を目指す」ことについて、より多面的に学びを深めていきます。塾生の受入れにつきまして御協力いただける学校がありましたら、ぜひ「よこはま教育実践ボランティア」の登録をお願いいたします。

よこはま教育実践ボランティア D期の活動募集が始まりました

D期（11月下旬～）の活動を募集する学校の申請が始まりました。教員を目指す学生にとっては、教員としての実践力を身に付ける場であり、横浜の学校の魅力を感じ取っていただく機会となります。「アイ・カレッジ」塾生の「教師体験プログラム(KTP)」の受入れにつきましても、本ボランティアの活動登録校に依頼させていただきますので、ぜひ、各学校の実態や行事等に応じた多様なフィールドの御提供ください。



教職員養成・育成だより 第54号

令和3年8月31日発行
横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

豊田小学校 メンター研の挑戦

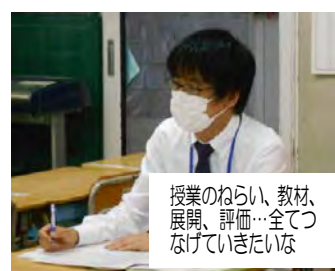
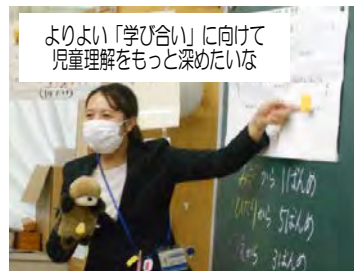
豊田小学校は、より自律的に学び続ける教職員を目指して、校内研修の充実を図っています。その中でも今号では、メンターチームの取組をご紹介します。

メンターチームのメンバーは6名。「開く つなげる とともに」を合言葉に、年間を通じて互いの悩みや課題を共有し、日々の授業改善やよりよい児童指導に生かしていこうとしています。

挑戦1 人材育成指標を活用した 授業研究会の実施

6月は福井里佳子教諭、吉野次郎教諭が算数科の授業を公開し、「授業力の向上」に向けて協議しました。また人材育成指標に基づいてメンバーそれぞれが日々の授業や業務を振り返り、専門性を磨き、高めるために力を入れて取り組みたいことを伝え合いました。

1年生担任の福井教諭は、子どものよさや違いを踏まえつつ、導入からまとめまで、テンポのよい授業展開を心掛け、日頃から発達段階に応じた指導・支援を工夫しています。授業研を通して、学び合える学級を目指し、個と全体へのよりよい働きかけを工夫し、更に児童理解を深めていきたいと語っていました。4年生担任の吉野教諭は、子どもの話にしっかり耳を傾け、一人ひとりに寄り添うことを大切にしています。授業研や授業後の協議を通して、自身の授業力の向上に向けて、人材育成指標に示された「授業構想」「評価・改善」の部分を課題として捉えました。ねらいに沿って、教材、授業の展開、評価を適切に組み立て、授業づくりを進めていく力を伸ばしていきたいそうです。今回、明らかになった課題の解決に向けて、福井教諭、吉野教諭は日々の授業改善に取り組むとともに、11月にも体育科の授業を公開します。



このように、年2回の授業研を位置付けるとともに、人材育成指標を活用することで、授業者自身が教師としての自分の成長を実感しながら、授業力の向上を図っていけると考えます。成長の実感やステップアップしている手応えが得られることは、自律して学び続けるモチベーションの向上にもつながります。



今回の豊田小学校は、年度初めに要請訪問の項目「37 人材育成指標の活用」を申請し、年間を通じて教職員育成課の指導主事が校内研修の相談、支援などに関わっています。人材育成指標の活用に関連した校内研修の実施をお考えの学校は、ぜひ一度、教職員育成課にご相談ください。

挑戦2 教員基礎研修を活用した メンター長の取組



今年度、豊田小学校のメンター長を務めているのは、木下和輝教諭です。メンバーの思いや悩みに寄り添いながら年間計画を作成し、よりよいメンター研の運営に向けて、リーダーシップを発揮しています。7月の研修内容は「学習評価」。メンター長がゼロから研修を企画するのは、とても大変です。そこで、「教員基礎研修」の「C 校内研修型」を活用することにしました。

教員基礎研修

C 校内研修型

eラーニング

+ 校内で協議

事前：ミラタイムで研修の流れや内容を伝達
・研修日までにeラーニングを視聴しておこう！
・ワークシートをダウンロードし、悩みを書き込んでおこう！

準備も簡単

当日：ワークシートに沿って研修をファシリテート
・メンバーの本音をたくさん引き出したいな
・解決の見通しや方向性が、自分たちでも確認できるといいな



進め方も安心

黒板を使って共通点をまとめる
木下教諭

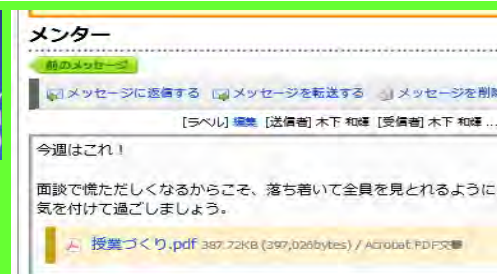
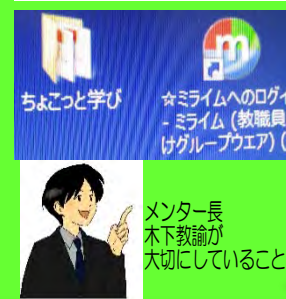
木下教諭は、C 校内研修型以外にも「教員基礎研修」のショートコンテンツ「ちょこっと学び」を活用しています。メンターチームのメンバーがしっかり集まるのは2か月に1回程度ですが、木下教諭は時間のすき間を「つなげる」工夫をしたいと考えました。そこで、メンターチーム内で大切にしたいことや意識を高めたいことを「ちょこっと学び」のショートコンテンツから選び、「ミラタイム」を通じてメンバーと毎週共有しています。

教員基礎研修

D 疑問解消型

ショートコンテンツ
「ちょこっと学び」
(PDF)

☆まずは「ちょこっと学び (PDF)」をダウンロード！デスクトップに貼っておき、すぐに出せるようにします！
☆学校行事やメンバーの様子を見て、今週の1枚を決めます！
☆ミラタイムにアップする際はメンター長としての一言を添えて！



合言葉「開く つなげる とともに」を大切にしながら、まだまだ豊田小学校の挑戦は続きます。

それぞれの学校の実態やニーズに応じて、人材育成指標や教員基礎研修を活用して、校内研修の充実を目指していきましょう。

豊田小のメンター研は、誰もが何でも相談できる時間です。メンター長として、今後も「へえ〜」で終わらせるのではなく、「あっ、なるほど」と気づき、実際の行動に移せるようになるための時間にしていきたいです。そしてメンターチームのメンバー一人ひとりが安心して働くことができ、ますますキラッと光り輝く職場づくりを目指していきたいです。

教員基礎研修
まずはお試しを！！

YCAN トップページ > 各区局 > 教育委員会事務局 > 教職員育成課 > 教員基礎研修 Top
<http://inw1.office.ycan/b/ky/ikusei/20200512111154.html>

★「教職員養成・育成だより」は横浜市立学校向けに記載していますが、大学等におかれましても御一読いただけますと幸いです。

教職員養成・育成だより 第53号

令和3年7月14日発行
横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

「横浜市 大学連携・協働協議会」って？

どのようなことを
話合う会合なの？

皆さんは、「大学連携・協働協議会」をご存じですか？

よく知りません。私たち教職員にはあまり関係のない会合だと思っていました。

学校にも関わる課題を大学と共に考えていく会合で、学校の方にも参加いただいています。

今までどのような話し合いをされてきたのですか？

「横浜市 人材育成指標」は、この協議会で、本市学校や連携している大学の意見を取り入れ作成しました。

また、教員志望者の減少や、経験の浅い教員の増加といった本市の今日的課題に対し、養成段階から大学等と連携し、即戦力となる教員を養成するが必要と考え、教育実習等の改革を行ってきました。

横浜市 人材育成指標



私たちにも関係することを協議していたのですか。今年度は何について協議するのですか？

令和3年度の協議事項は次の3点です。

- ① 人材育成指標【管理職版】の改訂について
- ② 大学教員の教員基礎研修等への参画について
- ③ 高校生・大学生対象 教員の魅力を伝えるイベントの構築について

協議事項について、もう少し詳しく知りたいのですが。

6月25日(金)にZoom開催した分科会の様子を紙面右ページにまとめてありますのでご覧ください。また、今回分科会に参加されなかった方も、令和3年度協議会の説明動画は8月31日まで視聴できますので、Leafからご覧になり、ぜひご意見をお聞かせください。

説明動画を見て、自分事として捉え、アンケートに記入してみます！

今後の進捗は、適宜、皆様へお伝えしていきます。

＊令和3年度 横浜市 大学連携・協働協議会 説明動画＊ (～8月31日まで視聴できます)
研修管理システム「Leaf」にログイン → 「研修検索・申込」をクリック → 「研修名」に「協議会」と入力し「検索」をクリック → 「2021/05/28(金)」の「令和3年度 横浜市大学連携・協働協議会」をクリック → 画面下部「動画一覧」から動画を視聴(全30分)

「令和3年度 横浜市 大学連携・協働協議会」

6月25日(金)分科会 (Zoom開催) 参加者71名

第1分科会 人材育成指標【管理職版】の改訂について

11名の参加者が、横浜市 人材育成指標【管理職版】の改訂に向けて、これから求められる管理職像を思い描きながら、活発に意見交換を行いました。意見交換の柱は三つ「①インクルーシブ教育のより一層の充実に向けて」「②GIGAスクール構想をはじめとする山積する教育課題への対応について」「③後進の育成、校内の人材育成の充実に向けて」でした。

現在、管理職として、日々学校経営を進めている校長先生方からは、学校を取り巻く状況や課題として捉えていらっしゃることをお話いただきました。コロナ禍において、判断・決断の場面が増え、そのための情報収集力や意思決定のスピード等がますます重要であることや、学校を取り巻く人・もの・ことを有機的に繋げ、コーディネーターとしてよりよい連携を図っていくことの大切さを改めて確認しました。大学関係者からは、学校や管理職に期待することとともに、大学で教職課程を学び、教員となった方々のよりよい育ちを導くために、校内の人材育成の更なる活性化を期待する声が寄せられました。本協議会をとおして、改訂する横浜市人材育成指標【管理職版】の方向性が見えてきました。管理職のみならず、前向きに学校経営を進めていく際の拠りどころとなる指標を作成し、「活用」できるものを整えてまいります。今後は、教職員育成課で原案を作成し、9月にはワーキンググループを実施する予定です。10月下旬にはパブリックコメントを募集する予定です。



第2分科会 大学教員の教員基礎研修等への参画について

「教員基礎研修」は、令和2年度に始まった新しいタイプの研修です。全ての教員が、自分の学びたい内容について、状況に合わせた形態で学ぶことができます。昨年だけで延べ9000人の教員が、教員基礎研修のeラーニングコンテンツを視聴しました。第2分科会では、大学の協力を得て教員基礎研修をさらに魅力的なものにするための協議を行いました。

実際に教員基礎研修を利用した学校からは「出張しなくても時間を有効活用して学ぶことができた」「学校の状況に合わせて訪問型研修を依頼した」といった経験談や感想を述べていただきました。大学からは、学習指導要領、食物アレルギー、オンライン授業のノウハウなど様々なニーズに応えるコンテンツの提供や、訪問やリモートで校内研修や授業づくりに参画すること、情報提供や学校のニーズと大学教員とのマッチングに関する事などについてご提言をいただきました。また、大学生が学校の授業を見学することや学校教員と直接関わることが、教員養成に非常に役立ち、学校にも還元できるものになるのでは、等の意見が出ました。



第3分科会 高校生・大学生対象 教員の魅力を伝えるイベントの構築について

昨今、教員志望者の減少が課題となっています。教員志望者を増加させるには、高校生や教職課程を履修している大学生等へ、教員の魅力を伝えていく必要があります。そこで、今回第3分科会では、「本市学校、教育委員会、大学が連携し、Web上に動画や体験イベント情報などを公開していく。」という提案についての協議を行いました。頂いたご意見の一部を紹介します。



【大学から】 ◆大学2、3年生が進路選択の分岐点。◆力がある学生が「私なんか…」とあきらめてしまうことがある。◆キラキラ輝いている先生との出会いは影響が大きい。◆若い先生方の話を学生に聞かせたい。◆大学のHPと市のページをリンク。◆現職の先生方に教員のよさを伝えてもらえるような動画があれば、大学の授業だけでなくオープンキャンパスで高校生向けに発信できると思う。

【学校から】 ◆学校のよさ、すばらしさについて現場の生の声を聞いてほしい。◆近隣の高校生が夏休みに児童の勉強を見てくれた。「わかった！」という児童の喜びが高校生に伝わった。◆採用試験にもし落ちた場合、次の受験までのプロセスを見える化し、安心して受験できるシステムづくりが必要。

教職員養成・育成だより 第52号

令和3年7月2日発行

横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

Do you know?
Let's try!

教員基礎研修

「教員基礎研修」は、令和2年度に生まれました。そのコンセプトは、「横浜市 人材育成指標」でも謳われている『セルフ・マネジメント』！

自分で学びたい内容と学び形態を選び、学びたいときに、学びたい場所で研修を行うことができる新しい研修です。

教員も、主体的に学ぶことが大切だね！！

興味があること・もっと深めたいこと、などを自分で選んで受講できる！！

資質・能力	動画タイトル				
教職の基礎	横浜の人権教育	「先生になりたい～高校生の教師体験記」(YouTube)	ストレスマネジメント	横浜のあゆみ	教育公務員としての社会人マナーの向上
専門性	授業づくりで大切なこと	学習評価～最初の一步～	児童生徒の課題理解と支援の在り方	言葉のキャッチボールはうまくいっていますか？	傾聴～相手に寄り添うために～
マネジメント	学級担任の仕事	学級をマネジメントする	学級経営案の作成	自閉症・発達障害って？	個別の教育支援計画・個別の指導計画って？
	ユニバーサルデザインって？				
マネジメント	これからの防災教育	教育実習指導者の役割	地域とともに子どもを育てる学校づくり		

【アドバイス編】
現在90を超えるコンテンツを公開しています！！
昨年度下半期だけで、のべ9000人が利用しました！！

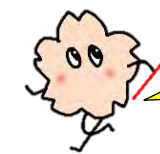
資質・能力	【今日のちょこっと学び】				
教職の基礎	ちいちゃんのおじぎそう	アンドロイド先生ハルカ			
専門性	ふわふわ言葉	学習ルール(小学校編)～なぜこのようなことに～	中学校担任シリーズ1 学級組織のつくり方	中学校担任シリーズ2 ルールづくり	中学校担任シリーズ3 環境づくり
マネジメント	教育実習のこれから	時短テクニックPC操作編	1理論編 1指導要領との関連	1理論編 2考えるための技法	1理論編 3活用上の留意点
	2実践編 2ペン図	2実践編 3クラゲチャート			

ワンペーパー(PDF)で5～10分で学べる
ショートコンテンツです！！

資質・能力	【今日のちょこっと学び】				
教職の基礎	教育公務員としての社会人マナーの向上				
専門性	授業づくりで大切なこと	【授業づくり】～すべての子どもに気を配るには	中学校担任シリーズ	学級活動の充実(小学校)	児童生徒の自己肯定感を高める
マネジメント	インクルーシブ教育システムって？	色覚異常の児童生徒への配慮	自閉症・発達障害って？	個別の教育支援計画・個別の指導計画って？	教育のユニバーサルデザインって？

これからも、教員のニーズに合った様々なコンテンツを追加していきます！！

校内でも、それぞれの立場、状況に合わせて受講形態を選んで学べる！！



教員基礎研修には、花咲研修室に来て学ぶ「A 集合研修型」も年に8回ありますが、校内でも学ぶことができます！！
たとえば…

一人で
学び
たい！

B 通信教育型

eラーニング

+ 業務の中で実践

※指導主事等に
相談もできます！



動画とワークシートで、自分で学べるから助かる！学んだことを実践してみても困ったときの相談窓口も案内されているから、安心！

校内の
人材育成
に役立
てたい！

C 校内研修型

eラーニング

+ 校内で協議



「働き方改革」は今やキーワード。学年主任や研修担当などに情報提供して、うちの学校に合う校内研修を考えてもらおう。



メンター長になったから、悩んでいる後輩に声をかけたいけど、お説教っぽくなるのは嫌だし。これならメンター研で取り上げて堅苦しくなく取り組めるかな。

短時間
で学び
たい！

D 疑問解消型

短時間のeラーニング

や

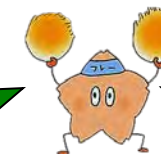
ショートコンテンツ

(PDF)



【今日のちょこっと学び】ってプリント一枚でできるのね。これなら、短時間でもできそう。実際にうちの学年でもあったケースだし、学年会のあとにみんなで作ってみたいかな。

忙しい教員の学びを
応援します！！



同僚と一緒に考えたり、校内の人材育成に生かしたり、『チーム学校』の雰囲気づくりを応援します！！

教員基礎研修、まずはお試しを！！

YCAN トップページ > 各区局 > 教育委員会事務局 > 教職員育成課 > 教員基礎研修 Top

<http://inw1.office.ycan/b/ky/ikusei/20200512111154.html>

教職員養成・育成だより 第51号

令和3年6月23日発行

横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

「人を育てる、自分も育つ」教育実習

毎年、多くの学校で、「将来、共に子どもたちのために仕事をする後進を養成しよう」という教職員の熱意に支えられて教育実習が行われています。一方、実習生の指導を通して学校や指導教員自身が成長する機会であるととらえることもできます。

今号では、教育実習を通じた教員の人材育成を行っている3校の様子を御紹介いたします。

学校経営の一層の浸透へ 二つ橋小学校

青木和裕校長先生が日ごろから大事にしていることは、「一人ひとりを大切にする」、「『～合い』の重視」、「チーム学年経営」と伺いました。今回、実習生の指導を担当した富居隆志先生は、教員経験7年目で、これまで実習指導経験はありませんでしたが、校長先生は、「視野が広く、人間性が優れているので実習指導にもチャレンジさせた。」と仰っていました。

富居先生に、実習指導で心がけたことについて尋ねると、「自分がふだん大切にしていることをあるゆる場面で実習生に伝えることに努めた。上手に授業を進めることも大事だが、まず、一人ひとりに寄り添うことで児童理解につなげることの重要性を教えた。」と述べていました。実習生もその視点を受け止め、休み時間も常に子どもと一緒に過ごすなどして児童理解に努めていました。

次に、実習指導を通して得たことを伺うと、「日ごろの自分の指導の在り方を見つめる機会となった。また、授業で自分がT2で入ることにより、子ども一人ひとりの反応の仕方やノートのとり方などを

見ることができ、新たな気付きもあった。」と述べていました。

さらに、初めての实習指導は？と尋ねたところ、「実習期間に入ってもそれは学級担任としてのふだんの学級経営の連続にほかならない。」という、毅然とした回答が返ってきて驚きました。冒頭に記した校長先生の思いが、全教職員に浸透し、それがそのまま実習生にも自然に伝わっていく——教育実習が特別なイベントではなく、日々の実践の積み重ねの一部として行われているのがとてもすばらしいと感じました。



富居隆志教諭 青木和裕校長



～秋期の教育実習に備えて～ ♪指導教員の皆様へ♪

教育実習で陥りがちなのが、忙しいあまりに事前の準備が不足した状態で実習生を迎えてしまい、指導教員も実習生もあたふたしてしまうということです。「備えあれば憂いなし」しっかりと準備を行うことで、実習生も成長し、そして、教員自らも成長することができます。

指導教員の方は、ぜひ次の資料をご活用ください。効果的・効率的な教育実習についてや指導のポイントなどを詳しく説明しています。

YCANトップ > 各区局 > 教育委員会事務局 > 教職員育成課 > 教育実習ページ(最下部)
指導教員用資料 指導者用 e ラーニング (Leaf) 教育実習サポートガイド
※「教育実習ページ」に、実習生用事前 e ラーニングも用意していますので、こちらも併せてご活用ください。

人材育成の大切さ 改めて実感！ 南山田小学校



佐藤康晴校長 青木利成教諭

佐藤康晴校長先生は、昨今の人材育成について、「教育実習は、人を育てる大切な機会。学校でなければ味わえない、教員の仕事の楽しさややりがいを感じ取ってほしい。」と仰っていました。

今年度、実習生を担当したのは、ミドルリーダーとして活躍している青木先生です。今回初めて教育実習生を指導する青木先生に、校長先生は「実習生の人材育成をとおして、多くのことを学ぶチャンスにしてほしい。」と期待を寄せていました。

青木先生に実習指導について考えたことを伺うと、「自分が学生の時に行った教育実習や初任校で奮闘していた頃を思い出し、自分が当時の指導教員にしてもらって嬉しかったことを実習生に示そうとしている。横浜市で一緒に働く仲間を、今まさに育てているということを実感しながら実習指導を行っているので、とてもやりがいを感じている。」との答えが返ってきました。また、実習生に伝えたいことを伺うと、「学校は多忙で大変な職場と言われることもあるが、自分は決してそれだけではないと思っている。南山田小で、『子どもの成長に関わるって素敵なことだな』『授業づくりって楽しいな』と思ってもらいたいし、教員になるという気持ちをより高めてほしい。」とのことでした。

教育実習をきっかけに人材育成の大切さを考え、人を育てるよい循環を繋げていこうとしていることが、お二人の熱く力強い言葉の端々から伝わってきました。

子ども理解を深める よい機会 桂台小学校

渡邊勉校長先生は、教育実習は教員を目指す学生にとって、一つの通過点である、と捉え、教育実習前のボランティア活動、教育実習、大学に戻ってからの学びがより有機的に繋がるよう、教育実習の内容や校内の体制を細やかに整えていました。実習生はボランティア活動をとおして、基本的な教育活動の進め方等を捉えることができていたので、実習中は学級経営や授業づくりをしっかり学んでほしいという思いから、児童指導や授業力に定評のある渡邊裕子先生を実習担当としたそうです。

実習指導で心がけたことについて、渡邊先生に尋ねると「『教える』のではなく、何事も『一緒に進める』ことを大切に」と述べていました。また、教育実習を担当して、よかったことを伺うと、「実習生と1日を振り返る時間に、微笑ましいエピソードを紹介し合ったり、『こんな姿を見つけたよ』と伝え合ったりして、子どもの成長やよさを共有しているところ。この時間は、実習生がいるからこそ得られました。自分と実習生の2つの視点から子どもを多面的に見ることで、児童理解が深まったと感じます。」という答えが返ってきました。



実習生の授業のサポートをする 渡邊裕子教諭

実習生と何事も「一緒に進める」教育実習を大切にすることで、指導教員自身も自らの指導を見つめるよい機会としていました。



渡邊裕子教諭 渡邊 勉校長

令和4年度に実施する教育実習の調査について御協力のお願い(小中学校)

6月14日付、教教育第161号「令和4年度に実施する教育実習の調査について」にてお願いいたしましたとおり、来年度実施の教育実習に係る調査を実施します。ここ数年、一括方式・追加募集にて、申請する学生数が受入枠を超え、**受入れができない学生が生じています**。可能な限り多くの受入枠をご提供いただけますよう、ご協力をお願いいたします。 **ご提出の締切 7月21日(水)**

教職員養成・育成だより 第50号

令和3年5月24日発行
横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

「Leaf」分析チャート作成機能 運用を開始しました

4月26日から研修管理システム「Leaf」にて「分析チャート」作成機能が使用できるようになりました。横浜市 人材育成指標に照らして、自分の力を更に高めるセルフ・マネジメントを進めるためには、適切な目標設定とじっくり振り返る（内省する）ことが欠かせません。

根拠をもって目標設定や振り返りを行うためには、まず、人材育成指標で求められている資質・能力が、自分にどの程度身に付いているのかを確かめたり、自分の強みや課題を把握したりすることが大切です。今の自分の力をレーダーチャート状に可視化したものが分析チャートです。

セルフ・マネジメントの第一歩、あなたも踏み出してみませんか。



作ってみよう 分析チャート



誰でも簡単！3ステップで作成できます。作成にかかる時間は約10分です。

①Leafにログイン

トップページの画面下部「My 目標・スキルシート」に分析チャートが掲載されています。

②設問に回答

「入力」ボタンを押すと設問が表示されますので、回答し、「確認画面へ」を押してください。

設問の例	1	2	3	4	5
児童生徒の学びの促進を目的に、横浜市の教員として高い理解や管理を持って、授業活動にあたっている。	1	2	3	4	5
児童生徒や教員、保護者、地域等の思いに共感し、真摯に向き合っている。	1	2	3	4	5
人権を尊重し、多様な価値観を認め、大切にしている。	1	2	3	4	5
教員としての専門性を、自分自身で高めようとする意識が十分に発揮されている。	1	2	3	4	5
「横浜国立大学附属横浜高等学校」の内容を理解し、活用している。	1	2	3	4	5
教員としての仕事を重要視し、教育者として誇りを持って取り組んでいる。	1	2	3	4	5
教育活動が定まる「教育の目的」及び「教育の目標」を踏まえ、授業実践に教育目標をもとにしている。	1	2	3	4	5
横浜市の教員として、誇りと責任をもって、授業活動にあたっている。	1	2	3	4	5
組織における自分の役割と責任を自覚し、職務を遂行している。	1	2	3	4	5
自己研鑽に熱心、向上心をもって取り組んでいる。	1	2	3	4	5
授業実践、教員としての専門性を、横浜国立大学の授業を踏まえ、自分の実践に向けて取り組んでいる。	1	2	3	4	5
上司や同僚からの指導・助言を真摯に受けとめ、自ら実践を促す。自分の業務に生かしている。	1	2	3	4	5
組織の成長や個人の成長を促すために、自分の考えを伝え、自分の考えを認められている。	1	2	3	4	5
授業実践や教員、保護者、地域等と積極的に関わり、人間関係を築いている。	1	2	3	4	5
自分の、児童生徒の成長や学びの促進に貢献していることを見出し、授業活動に活かしている。	1	2	3	4	5

1つの設問に対し、1～5の数値で回答すると、レーダーチャートになります。

③レーダーチャートを表示

最後に「提出」ボタンをクリックするとレーダーチャートが表示されます。

- ※「閉じる」をクリック後も、結果はトップページからいつでも参照できます。
- ※入力期間中は何度も回答を修正ができますが、**修正前のデータは保存されません**。残しておく必要があれば「個人結果 PDF 出力」ボタンをクリックし、印刷ボタンで紙に印刷するか PDF に印刷し、保存してください。
- ※入力期間が終了すると最新のデータのみ保存されます。保存されたデータが表示されていない場合は期間を遡って「表示」をクリックします。

横浜市立上菅田笹の丘小学校で 人材育成指標に関する研修を実施しました

今回の研修の実施に際して、世古 正樹 校長先生は「自分の資質・能力を、自分自身で高めるために、人材育成指標や分析チャートを活用してほしい。」という思いをもっていらっしゃいました。まず、スライドによる説明を通して、人材育成指標について理解を深めました。子どもたちを育てるために教員に求められている資質・能力、分析チャートの活用の仕方や研修の選択方法など、セルフ・マネジメントの全体像を捉えました。次に、分析チャートをもとに、更に自分の強みや課題、今年度の目標設定を行い、アクションプランを一人ひとり考えました。セルフ・マネジメントは一人でも進めていくことができますが、学年等のグループやチームで認め合い、励まし合いながら進めていくことで、より確かな進歩や成長につなげていくことができます。研修会の最後は、時間をたっぷりとり、一人ひとりが考えたアクションプランを共有しながら、互いに支援できることを確認したり、応援メッセージを交換したりしました。

先生方はこの後も自分の資質・能力を更に高める研修を Leaf で検索したり、学年研等で目標の達成状況を確認したりするなど、引き続き学校全体でセルフ・マネジメントを推進しています。



人材育成指標について理解を深めます

分析チャートをもとに、更に自己分析します

互いに支援し合いたいことを確認します

◇分析チャートを活用することで、自分の強みや課題が明確になり、今の自分にあった目標を設定することができました。また、「支援してほしいこと」をグループの人たちと見せ合い、励ましや共感等のコメントをもらって、率直にうれしかったです。困ったときに相談しやすくなり、目標達成に向けて頑張れそうです。



◇分析チャートを作成し、自身の課題に改めて向き合うことができました。また今年度の目標設定では、数年後に「こういった姿で仕事をしたい」「この仕事をやりたい」というビジョンを見据えた上で設定することができました。しかし「憧れの先輩のようになれるだろうか」という不安ももちろんありました。その時に学年の先生方をはじめ、たくさんの先生方から応援のメッセージをいただき、すごく心が温まりました。普段忙しい日々の中で自分を見つめ直す機会がなかなか取れないので、こういった研修を受けることができ非常に充実した時間を過ごすことができました。

◇昨年度、初任者研修で分析チャートを用いて自己分析を行いました。今回、昨年度に取り組んだものと比較しながら、分析をしました。成長できたと感じる場面もあれば、2年目になり、新たに見えてきた課題もあります。半年や1年ごとに振り返り、「今の自分」と「こうなりたい自分」を明確にすることが、より豊かな教員生活につながっていくと思いました。



要請訪問の中に「37 人材育成指標の活用」があり、今回の上菅田笹の丘小学校はこちらに申請していただき、研修会が実現しました。上記の内容など、人材育成指標の活用に関連した校内研修の実施をお考えの学校は、ぜひ一度教職員育成課に御相談ください。

本校の先生方が更に学び続けようとするきっかけになりました。この意識の高まりを大切にしながら、管理職としても支援していきたいと思っております。



校長先生から

★「教職員養成・育成だより」は横浜市立学校向けに記載していますが、大学等におかれましても御一読いただけますと幸いです。

教職員養成・育成だより 第49号



令和3年4月26日発行
横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

教育実習、始まります！～未来の仲間を育てましょう～

教員採用試験倍率が減少する中、人材の確保が本市の課題となっています。教育実習の指導は学校にとって負担もありますが、優秀な人材を横浜市で採用するためには、その前段階である教育実習の受け皿が必要です。ぜひ本市のよさや教員の魅力を伝えていただき、一緒に後進を育てていきましょう。

◎教育実習の実施に当たり、次の内容を必ずご確認の上、実習生の指導をお願いいたします。

今年度の実施に関すること

「横浜市教育実習評価票」について（小・中・義務教育学校）

横浜市指定の評価票をご利用ください。今年度から栄養教育実習でも横浜市指定の評価票を使用します。（特別支援学校は神奈川県内特別支援学校教育実習評価票を使用します。）

大学等からの謝礼金等の扱いについて（全校種）

大学から謝礼金等は受け取らないでください。ただし、給食費、実習生の個人保有となる教材費などは実習生の負担となります。

感染症対策について（全校種）

学校で通常行っている感染防止対策をご指導ください。また、「教育実習生健康チェック票」等をご利用ください。

実習中の案件について（全校種）

事件・事故の発生、活動継続が困難な場合等は、必ず教職員育成課に管理職を通じてご連絡ください。また、実習生へのハラスメントの防止についても、児童生徒への指導と同様に、十分ご配慮をお願いします。



次年度の申請に関すること（小・中・義務教育学校）

内諾方式の申請期間について

締切は6月18日（金）です。それ以後は学生の受付をしないようお願いします。

面接時に大学又は学生が提出する書類について

本市指定の書式を使用することになっていきますのでご確認をお願いします。

一括方式へのご協力のお願い

各学校で、「内諾方式のみ」「一括方式のみ」「両方式の併用」から選択できますが、ここ数年、申請者のうち30人ほど本市での受け入れができない学生が生じています。

「一括方式」枠のご提供を、ぜひよろしくお願いいたします。

教育実習指導者の不安を解消します！



「初めて実習生を指導する」「久しぶりに実習生を指導する」「忙しくて十分な指導ができるか心配」という教員向けに、次のようなサポートがあります。



その1 教育実習サポートガイド

教育実習を効率よく、効果的に指導するための手立てやアドバイス、注意点などが記載してあります。ぜひ校内でご活用ください。

→紙面下の YCAN ページからダウンロードできます。

その2 eラーニング「教育実習のこれから」(動画)

これまでの教育実習と現在との違いや、柔軟な運用のアイデアを動画で紹介しています。

→紙面下の YCAN ページにリンクがあります。

その3 教育実習指導者講習会

5月19日（水）15:40～16:45 花咲研修室2階

初めて実習生指導を行う方、久しぶりに行う方の中で、参加を希望する方が対象です。

（実習の進め方や運用に関する相談活動がメインです。職種・教科の専門に関する講習は行いません。）

→参加申し込み方法は4月21日付 教教育第33号通知に掲載のほか、紙面下の YCAN ページからもご確認いただけます。

※「まん延防止等重点措置」の延長、又は、「緊急事態宣言」が適用された場合は中止とします。



教育実習生の指導は、自らを振り返り、自身の授業改善や指導力の向上など、自己成長の機会でもあります。

最近では、校内人材育成の場として、指導教員にあえて経験の浅い教員を登用する学校も増えています。

教職員育成課でも、「中堅教員研修」を受講する年度に「教育実習生の指導」を行った場合、校内研修の一部と代替ができるようにしています。（詳細は「中堅教員研修」の実施要項をご確認ください。）

教育実習について必要な情報を確認したいときは・・・



☆横浜市教育実習システムガイド（小・中・義務教育学校の手続きに関するガイド）

☆教育実習サポートガイド（実習生を指導する教員向けのガイド）

☆教育実習評価票等（小・中・義務教育学校）

☆横浜市教育実習生健康チェック票、教育実習生として学校で活動するための心構え（全校種）

<関連動画>

☆eラーニング ①教育実習実務担当者対象 ※実習生の受け入れ手続きや実習計画の作成・運営等を行う方は必ず受講。（4月2日付 教教育第792号通知参照）

②教育実習指導者対象（4月21日付 教教育第33号通知参照）

※なお、教育実習生対象の事前指導 eラーニングも用意していますので、ご活用ください。（4月21日付 教教育第33号通知参照）

教育実習関係 YCAN ページはこちら！！ <http://inw1.office.ycan/b/ky/ikusei/20190710160746.html>

YCAN トップページ→各区局→教育委員会事務局→教職員育成課→教育実習ページ

★「教職員養成・育成だより」は横浜市立学校向けに記載していますが、大学等におかれましても御一読いただけますと幸いです。

教職員養成・育成だより 第48号

令和3年4月2日発行
横浜市教育委員会事務局 教職員育成課



教員の魅力 高校生が伝えます！ 動画&リーフレット「先生になりたい～高校生の教師体験記」公開

教員採用試験倍率が減少する中、人材の確保が本市の課題となっています。より多くの高校生や大学生に、学校教育に関心を持ってもらうため、令和元年度に、教員の魅力を本市学校や大学が発信する「教員の資質能力に係る取組発表会」(第37号参照)を実施しました。

さらに、令和2年度は、中高生や大学生を視聴対象とした、教員の魅力を伝える動画及びリーフレットを横浜国立大学と共同で制作しました。

本号では、おすすめのポイント、内容、制作の意図、を紹介します。
右の二次元バーコード、又は、YCAN教職員育成課トップ→大学連携関係ページから視聴・ダウンロードができます。ぜひ、ご覧ください。



おすすめのポイント

- ①高校生の目線で、教員の魅力が語られています
→主人公は横浜市立高校3年生(撮影当時)です。
横浜市内の小学校で教師体験を行いました。
- ②小学校の教員の日々の取組が収められています
→授業、清掃、下校指導、放課後の会議…
経験の浅い教員が奮闘している様子や教員が語る仕事のやりがい等を発信します。
- ③動画とリーフレットが連動しています
→教師体験の内容をストーリー仕立てにしています。



動画の内容・あらすじ

市内の小学校1年生の学級で教師体験を行った主人公(高校生)は、図画工作の授業や大掃除のお手伝い、放課後の会議への参加、学校見学等とおして、子どもたちや教員と豊かに関わります。国語の授業では漢字を教える体験もし、その様子を小学校時代の恩師にも見ていただくことができました。動画の終盤では、教師体験の中で見いだした、教員という仕事のやりがいや魅力について、高校生の目線から語ります。また、動画に登場した教員・管理職・大学生が、それぞれの立場で教員という仕事について語ります。動画は全18分です。



主人公を高校生にしたのは、なぜですか？

制作の意図をQ&Aで紹介！

本動画は主に中学生・高校生が視聴することを想定して作成しています。中高生が自分も教師体験を行っているような気持ちで視聴し、教員の魅力を感じてもらえるよう、高校生の目線で構成し、発信しています。



動画を通して、伝えたかったことは、どのようなことですか？

児童生徒にとって、教員は身近な職業の一つです。しかし、児童生徒が日々見ている教員の姿は、仕事のごく一部である、ということ伝えるため、児童生徒の下校後に教員がどのような仕事をしているかなどを、高校生にも体験してもらいました。また、高校生に教員の魅力ややりがいを見いだせるよう、高校生が多くの教員にインタビューする場面を設定し、教員の仕事をより多面的に捉えられるようにしています。



リーフレットの内容・活用方法

リーフレットの内容は右のとおりです。本市の学校や大学に配布します。また、中高生にとって読みやすいよう、イラストを多く取り入れました。ワークシートも用意しましたので、中学校、高等学校のキャリア教育等でもぜひ御活用ください。

- ☆学校の「先生」ってどんな仕事？
- ☆教えて！「先生」の魅力
- ☆魅力がいっぱい！
中学校・義務教育学校・高等学校・
特別支援学校の「先生」のことも知りたい
- ☆学校の「先生」になるには
- ☆横浜市の取組を紹介！安心サポート



★★★アイ・カレッジ コーナー★★★

KTP(教師体験プログラム)で学んだこと

様々な教育活動に触れたり、体験したりすることを通して、教師の仕事の実際を学ぶため、アイ・カレッジでは例年KTP(教師体験プログラム)を実施しています。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながらの実施となりましたが、延べ84校の学校に塾生を受け入れていただきました。本当にありがとうございました。塾生の学びの記録を一部で紹介します。

学級経営と授業づくりの工夫を学んだAさん

生徒のやる気を高めつつ、落ち着いた雰囲気をつくって授業に入るため、生徒の着席を促したり、必要なものを準備するための指示を出したりするなど、教師は大変細やかに声を掛けていました。授業中も一人ひとりの状況に応じて、机間指導を行っていました。よい授業をつくるためには、学級経営や生徒とのコミュニケーションが充実することも欠かせないことを学びました。

発達段階による違いを踏まえた児童との関わり方の大切さを学んだBさん

安全に関する指導の仕方や授業中の教師の声掛けの内容が、低学年と高学年の児童では、ずいぶん異なることを目の当たりにしました。どのクラスでも、発達段階や一人ひとりの状況を踏まえ、教師が様々な工夫や配慮を丁寧に行っていました。「子どもに寄り添った指導」ということがどういったことか、KTPのおかげで具体的に分かりました。

令和2年度 閉講しました



令和3年3月20日の講座をもって令和2年度の活動がすべて終了となりました。最後の講座では、副塾長から塾生へエールが贈られるとともに、改めて自分が目指したい理想の教師像について、オンライン会議システム上で語り合いました。今後も一人ひとり努力を積み重ね、「横浜の教師になる」という夢の実現に向かっていってほしいと思います。